



浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum News

2020.12.15
No.341

十八世紀の製材と二五枚の瓦

旧高山家住宅のなみじん

蛸塚公園では、江戸時代の民家として、旧高山家住宅を展示しています。

これは、西区村櫛町から蛸塚へ移築したもので、案内看板には、「回家（高山家）は、安政年間（一八五四～一八六六）のころ分家し、その時堀江から古い建物を移築したという」と解説しています。「安政年間」というのは、移築時に行った高山さんへの聞き取り調査に基づきます。

この解説のように、旧高山家住宅は、十九世紀半ばの農家の住まいであるとともに、堀江村（現在の西区館山寺町）にあった、より古い建物の姿をとどめるものでもあります。古い建物の名残として注目したいもの



ひとつは、「おい」と呼ばれる座敷の南側の柱です。通常の柱の断面は正方形ですが、この柱は、棟方向が約一三センチメートルなのに、梁方向は約一〇センチメートルで、正方形ではありません。

次に、「おい」と奥の部屋、「なんど」とこの境の柱です。この柱の一部には、斧で製材した痕跡が認められます。しかも製材前の木材のはだを思わせる丸みをおびているところもあり、かんなを使っていないに整えられた柱材とはいえません。

断面が正方形でなかったり、斧の痕跡があったりするのには、これらの柱が十八世紀に製材されたことを物語ります。堀江村にあった旧高山家住宅の前身の建物は、十八世紀半ばに建てられたのでしょう。

こうしたことから、「おい」には床の間や押し入れのように、村櫛村への移築時に増設された部分もありますが、これらを除けば、十八世紀半ばの座敷のありようを伝えてくれると考えられます。

堀江村から村櫛村への移築に伴って、土間部分である「にわ」の東辺と、「なんど」の

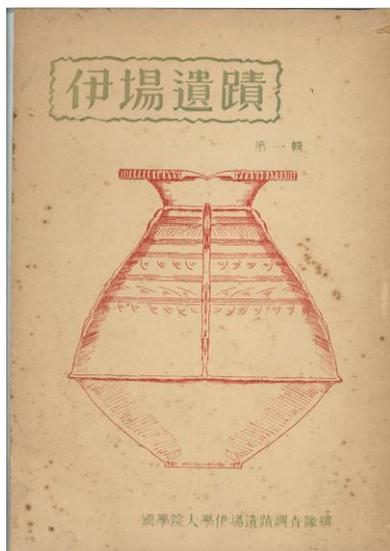
北辺の柱が取り替えられました。また、「なんど」の北辺の屋根には、瓦をのせることとしました。瓦の数は、わずかに二五枚です。茅葺き屋根の一部に瓦を取り込んだわけですが、その意図はわかりません。一般に瓦屋根には防火の効果があります。しかし、旧高山家住宅で瓦があるのはほんのわずかであって、防火の装置とはいえません。

また、瓦びきの屋根は、その家の社会的な格式の高さや、経済力の優位を、社会に向けて誇らしく明示するという効果もあります。しかし旧高山家住宅の二五枚の瓦は、裏側の目立たない部分にあり、社会に向けて何らかのメッセージを発信するといったものとは考えられません。

とはいえ、何かのわけがあって瓦を使ったのであり、その理由をさぐることが、幕末期の農民たちの思いを知ることにつながることでしょう。



『伊場遺蹟』 第一輯



伊場遺跡を扱う文献は数多く出版されていますが、このなかでも見逃せないのが、『伊場遺蹟』第一輯です。

縦約 18 cm、横約 13 cm、40 ページだでの小冊子で、奥付によれば、発行は昭和 24 (1949) 年 8 月 15 日、編集兼発行者は金子量重と高柳智、発行所は國學院大学伊場遺蹟調査隊です。

内容は、金子量重が執筆した「伊場遺蹟—その発見と第一期調査—」、次に高柳智による「出土遺物について」、さらに樋口清之の論文「弥生式文化と伊場遺蹟」が続き、最後に塚越甲子郎の「西遠の古墳群について」を掲載します。

伊場遺跡の第一期調査は昭和 24 年 5 月に、第二期調査は同年 8 月に実施されました。第一期調査の成果を踏まえ『伊場遺蹟』第一輯は、第二期調査のさなかに出版されたのです。

昭和 20 年代は、静岡市の登呂遺跡や、愛知県豊橋市の瓜郷遺跡など、各地で弥生時代の遺跡の調査が進みました。『伊場遺蹟』第一輯は、弥生時代史に関心をもつ大勢の研究者や市民に向けて発信された、速報の役割を担ったといえましょう。

催し物のご案内

★小展示「道具たちの100年」

12月8日(火)～令和3年3月7日(日)

小学校社会科「道具とくらしのうつりかわり」にあわせ、くらしの道具の変遷を紹介します。



★冬休み体験館

12月22日(火)～令和3年1月5日(火)
※12月29日(火)～1月3日(日)は休館

- ・クイズラリー
- ・木のおもちゃ絵付け体験
- ・缶バッジづくり
- ・こま回し大会

★昔のくらし体験館

令和3年1月30日(土)・31日(日)

- ・昔の道具体験 (炭火アイロン・石臼・背負子など)
- ・昔の道具実演 (火打ち石・行灯・石油ランプ)

★テーマ展

「これなんだ? — 古代の木製品 — 」

令和3年2月6日(土)～5月9日(日)

出土品のほとんどは、カケラやバラバラの状態で見られるのに、どうしてこんな形とわかるのでしょうか?

木製品を例に一緒に考えてみましょう。

※各イベントの内容、定員、参加費などの詳細は、ホームページ、SNSでご確認ください。

※イベントは、変更・中止になる場合があります。

浜松市博物館

開館時間:9時～17時

12・1月の休館日:12/1～7, 14, 21, 29～31, 1/1～3, 12, 18, 25

〒432-8018 静岡県浜松市中区蛸塚四丁目 22 番 1 号

電話:053-456-2208 FAX:053-456-2275

Eメール:hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

HP:https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/